

## 本庁舎の再整備の基本的な考え方（案）

## 県民会館の再整備の基本的な考え方（案）

## 1 基本理念

## すこやか兵庫の未来を創る県政の拠点

## 【基本的な考え方】

県民の安全・安心な暮らしを支える防災拠点として高い耐震性能を確保するとともに、県民ニーズを的確に応え、多様性と連携を活かした兵庫の未来づくりを実現する県政の司令塔にふさわしい先進的な機能を備えた庁舎として再整備を行う。

## 2 目指す方向性

## (1) 県民の安全・安心な暮らしを守る庁舎

南海トラフ地震や直下型地震等に備えた高い耐震性能と、災害活動拠点として業務継続に必要な機能を確保する。

また、個人情報や機密情報の保護、防犯上の観点等を踏まえ、セキュリティレベルに応じた対策を強化する。

## (2) 県民に質の高い行政サービスを提供する庁舎

県民ニーズに的確に応える質の高い政策の立案・執行が実現できるよう、政策課題に応じた組織再編等に柔軟に対応できるフレキシブル性とICT化等による業務の高度化・効率性を確保する。

また、職員が能力を最大限発揮できるよう、良質な執務環境と多様な働き方に対応した機能を確保する。

さらに、本庁舎周辺に分散する県及び県関係団体を集約移転し、県施策との連携を強化する。

## (3) 県民が利用しやすい庁舎

高齢者や障害者をはじめ、県民誰もが利用しやすいユニバーサルデザインに配慮する。

また、議会の独立性を担保しつつ、訪れやすく利用しやすいように、傍聴機能や情報発信機能を充実する。

## (4) ランドマークとなる庁舎

県公館や栄光教会などの歴史的建築物と調和した元町山手地区にふさわしいデザインとするとともに、豊かな緑地空間を確保する。

また、明るく開放的なエントランスホールを中心に、県政情報やひょうご五国の多様な自然、歴史、文化等の魅力を発信する機能を強化する。

## (5) 環境に配慮した庁舎

省エネ設備や再生可能エネルギー、県産木材の利用など低炭素化を推進し、地球環境への負荷を軽減する。

また、建設段階から解体撤去に至るまでのライフサイクルコストの低減を図る。

## 1 基本理念

## 多様な人々が集う幅広い文化創造の拠点

## 【基本的な考え方】

人生 100 年時代の到来やワークライフバランスの進展により、「自分時間」が充実する中で、県民が自己実現や生きがいづくりのために行うさまざまな文化活動に加え、生涯を通じた学び直し、外国人が日本文化に触れる場など、多様な人々が集う幅広い活動の拠点として再整備する。

## 2 目指す方向性

## (1) 気軽に良質な芸術文化に親しむ環境

子どもから大人まですべての世代が、芸術文化に関心を持ち、気軽に触れることができるよう、鑑賞する機会を提供する。

また、鑑賞するだけでなく、一人ひとりが自由な創作活動を行い、その成果を発表する機会を提供することにより、芸術文化を通じて、心豊かな生活を実感できる場を目指す。

## (2) 人材育成と情報発信

芸術文化を担う人材を育成し、将来にわたって活発な芸術文化活動を展開するため、新進・若手芸術家等の活動を応援し、交流する場づくりを目指す。

県民が芸術文化の催しや支援など知りたい情報を提供できるよう、総合的な情報発信の機能を強化する。

## (3) 県民の幅広い交流拠点

県民の生涯を通じた学び直しによる自己実現や、次代を担う青少年の育成など、県民の幅広い活動を支援する。

開放的で潤いのある空間を備えた存在感のある華やかな施設を目指す。

また、外国人が日本文化に触れる機会を提供し、新しい人の流れを作り、地区全体の賑わいを創出する。

## 3 再整備にあたっての留意事項

## (1) 来訪者等が安心して訪れる施設

高齢者や障がい者をはじめ、すべての来訪者が快適に施設を利用することができるよう、ユニバーサルデザインに十分配慮した構造・設備とする。

また、大規模災害時には、ホールや会議室を一時滞在施設として活用し、帰宅困難者が安全に過ごすことができる施設とする。

## (2) 近隣の地域資源との連携

県公館、相楽園など、元町山手地区に立地する貴重な地域資源と連携を図ることにより、来訪者が単に地域資源を巡るだけでなく、地域資源を活用した感動体験を提供するなど、文化の香りと賑わいにあふれる地区の形成を目指す。

## (3) 県関係機関等の事務所との調和

県庁周辺に分散する県関係機関の集約にあたって、県民会館には県民による幅広い活動と密接な関連を有する機関を中心に配置し、利用者の動線等に必要な配慮を行う。